

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2775801687
法人名	株式会社ライフケア森本
事業所名	グループホーム四季 はる
訪問調査日	平成20年1月28日
評価確定日	平成20年2月27日
評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2008年2月3日

【評価実施概要】

事業所番号	2775801687
法人名	株式会社ライフケア森本
事業所名	グループホーム四季 はる
所在地	大阪市平野区長吉出戸6丁目14-38 (電話)06-6799-0077

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号
訪問調査日	平成20年1月28日
評価確定日	平成20年2月27日

【情報提供票より】(平成20年1月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	6 人, 非常勤 10 人, 常勤換算 10,4 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 ALC 造り		
	2 階建ての	1 階～	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷金	有() 円 ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,500 円				

(4)利用者の概要(1月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名	
要介護1	2 名	要介護2	5 名			
要介護3	5 名	要介護4	4 名			
要介護5	1 名	要支援2	名			
年齢	平均	82 歳	最低	75 歳	最高	92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	室家あったかクリニック 村田デンタルクリニック
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成17年4月地下鉄谷町線出戸駅にほど近い便利な場所に勾配屋根の2階建2ユニットのグループホームとして開設された。理念として「人には一人ひとりの個性がある」ということを何よりも大切にされている。施設長は「一人ひとりの個性はみな違う、その個性を大切にしたい」と熱く語る。自分の両親だったらどのように対応するだろうか考え、家にいるときと同じ状態を作り安心を生み出す努力をしている。居室は18室あり、広さも8畳でゆったりしている。リビングには床暖房、和室には掘りごたつがしつらえてある。キッチンには広くアイランド型で料理はし易く、会話が弾む対面式である。食事時間が一番楽しみなひと時として各職員は料理に力を入れ、献立を考え利用者と共に楽しく作っている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の提案事項として①施設内に理念を掲示する工夫②馴染みの家具の持込の2点があげられている。①については、外の看板に大きく掲示されている。室内に掲示することについては、普通の家庭としての雰囲気とそぐわないと懸念されてのことであるが、掲示に向けての方法を模索されている。②については、家族との話し合いを続けながら努力されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:がいぶ4)
	日々の業務の中や引き継ぎ時に、改善課題として取り上げられた事項に対して職員間で話し合いをしている。自己評価は職員間・ケアマネの間で討議した上で、施設長も交えて月1回の職員会議で取り組まれている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は利用者・家族・管理者運営者・西出戸町会長・婦人部長・役場介護福祉課などが参加されている。家族の方が出席しやすいようグループホームの行事に合わせて実施されている。平野区グループホーム連絡会が定期的にはほぼ毎月開催され、交流を図りながらスキルアップの講習が行われている。また、大阪市の介護福祉課とも連絡を密にし情報の提供を得ている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時にはその都度、利用者の日頃の様子を報告している。また、毎月「はる新聞」を発行し家族へ送付・報告している。新聞には、行事の様子・職員の異動・ホームのお知らせ・ボランティアとのひと時などが写真入で掲載されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	グループホームとして自治会に入会、地域の一員として地域活動に参加している。事業所に隣接してコミュニティーセンターがあり、催しのある時は常に参加するようにしている。また、地域のボランティア団体との関わりも積極的で、多くの団体が事業所で活動している。消防署との連携も、定期的な訓練が行われ密である。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「今までの暮らしと同様に、普通に暮らす。一人ひとりの個性を大切に」を理念とし、地域生活の継続を支えるための柔軟な支援をしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のミーティングで理念を確認し、常に自分の父だったら母だったらどうするを念頭にして日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所に隣接してコミュニティーセンターがあり、催しのある時には常に参加するようにしている。また、地域のボランティア団体との関わりも積極的で、多くの団体が事業所で活動している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者・職員が全員で自己評価をしながら、サービスの質の向上に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・家族・管理者・運営者・町会長・婦人部長・役場介護福祉課等で、3ヶ月に一度運営推進会議を開催し、現在取り組んでいる内容について報告、意見要望を受けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所、介護福祉課へ頻繁に訪問し関係作りを行い、関連講習会等の情報提供を得ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時にはその都度、利用者の日頃の様子を報告している。また毎月「はる新聞」を発行し、事業所内の様子や職員の異動についても写真を掲載し報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で利用者や家族の意見を聞くほか、意見箱を設置して積極的に意見を聞き出し、運営に反映するようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	出来る限り各ユニットの職員を固定し、顔馴染みの職員でのケアに心掛けている。またやむを得ず職員が代わる時は、ゆとりを持って引き継ぎをするようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	接遇・服薬・感染症対応等に対する講習会、研修会に積極的に参加させ、職員を育てる仕組みを設けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区内グループホーム間で研究会組織を作り、「四季はる」を中心に当番制にして、テーマを設けた勉強会を行い、サービスの質の向上に向けた取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まずは職員が自宅へ出向き利用者や家族と話すことから始め、事業所見学や体験宿泊などしてもらいながら、徐々に安心感を持ち慣れ親しむようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、共に食事作りや庭いじりをするなど協働しながら、和やかな生活が出来るよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族とも充分相談し、一人ひとりの思い・希望・意向を把握しながら、何が利用者にとって最良かを検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネ・担当職員全員でケアカンファレンスを行い、意見交換し、アイデアを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に一度、利用者や家族の意向を確認するとともに、計画が修了する前であっても、変化が生じた場合は検討見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて通院や送迎等、連絡を密にしながら柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間体制で診療可能な協力医を持ちながら、利用者や家族の希望に応じて、従来からのかかりつけ医の診療も受けられるよう対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、重度化した利用者はいないが、終末期のあり方について、利用者や家族・職員とかかりつけ医も交えて話し合う機会を作っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	毎朝のミーティングで、プライバシーを損ねることのない話しかけや対応等の理解・修得の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で利用者のスケジュールを合わせるのではなく、利用者の個性を大切に、その人らしい生活の支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日のメニューは利用者と相談しながら決めている。また、盛りつけや後片付けも利用者・職員の協働で楽しみながら行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	男性入浴日、女性入浴日は決めているが、その日の時間帯は決めずに、一人ひとりの希望の時間に合わせて入浴を楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作り、庭いじり、書道、三味線など、一人ひとりの生活歴を活かした得意分野による役割で、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの希望に応じて、近所の公園や神社を散歩したり、スーパー・百元ショップへの買い物や喫茶店にも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	危険防止と不審者侵入防止のために、各ユニットの出入り口のドアが施錠されている。	○	日中職員の目の行き届く時間帯を決めてでも、各ユニットの出入り口のドアロックを外す努力をして欲しい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、避難訓練・避難経路の確認などを定期的に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を毎日チェックし、一人ひとりの栄養摂取量がバランス良く取れるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりの情報から馴染みの深いものを見つけ出し、ソファや季節の草花など生活感・季節感のあるものを整え、居心地のよい空間づくりをしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや椅子の他、家族の写真や日用品などが持ち込まれ、居心地よく過ごせる工夫がされている。		